

もうひとつの“結”

東北大学大学院 内海康也
 首都大学東京 忠快仁
 九州大学大学院 長谷川伸
 大阪市立大学大学院 増井徹
 明治大学大学院 丸山洋平
 神奈川大学大学院 三澤穂高

1. 現状分析

1-1. 街歩きで感じたこと

基盤目状の街区によって地図上では分かりやすい都市構造となっている。

しかし・・・
 実際に歩いてみると都市全体を捉えにくく、分かりやすいとは言えない。

- ・東西軸の活力の低下
- ・特徴を見出しにくい南北軸
- ・拠点性の欠如

→ 都市を把握するための基盤を構築することが必要。

住民と観光に特化した2拠点を形成する。

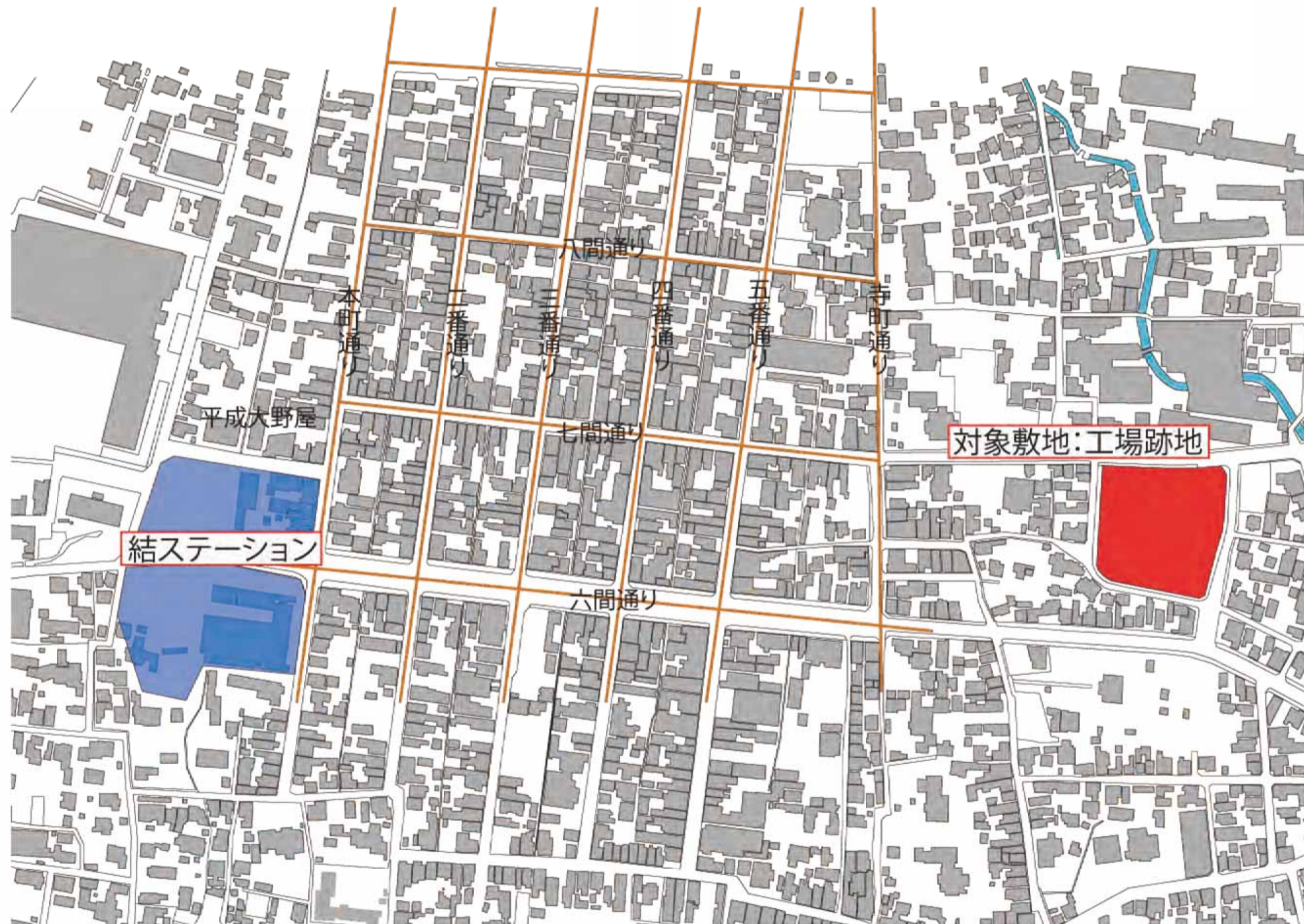
→ 連結する通りを都市の中で明確化

結ステーション 七間通り 工場（跡）

住民 観光 + 産業

「結」というキーワードのもとこれらをつなぎ付け
 都市が保有するポテンシャルを引き出す。

1-2. 対象地



1-3. コンセプト

もうひとつの“結”



結ステーション



整備された固いイメージ



直行した堀

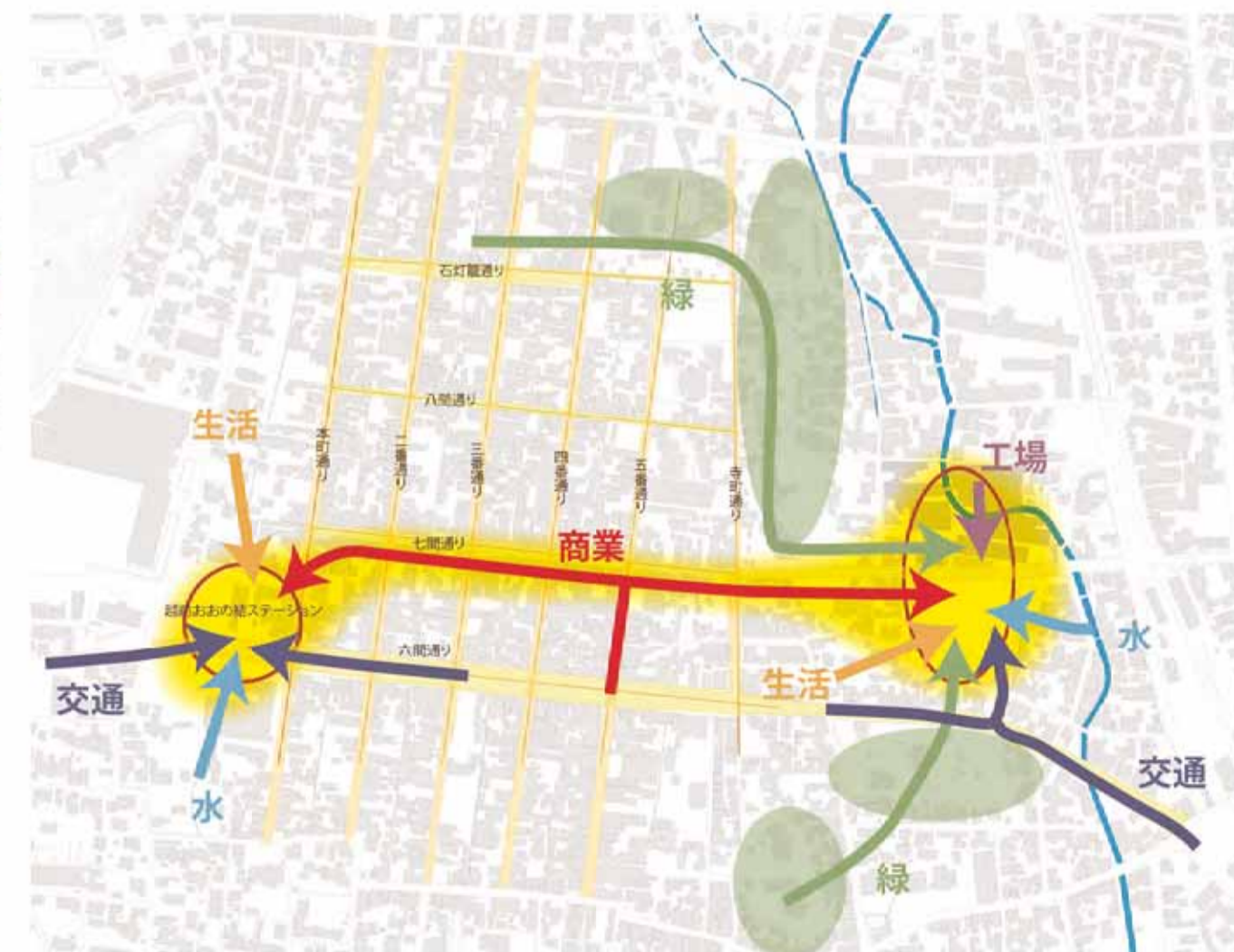
工場跡地



くつろげる柔らかいイメージ

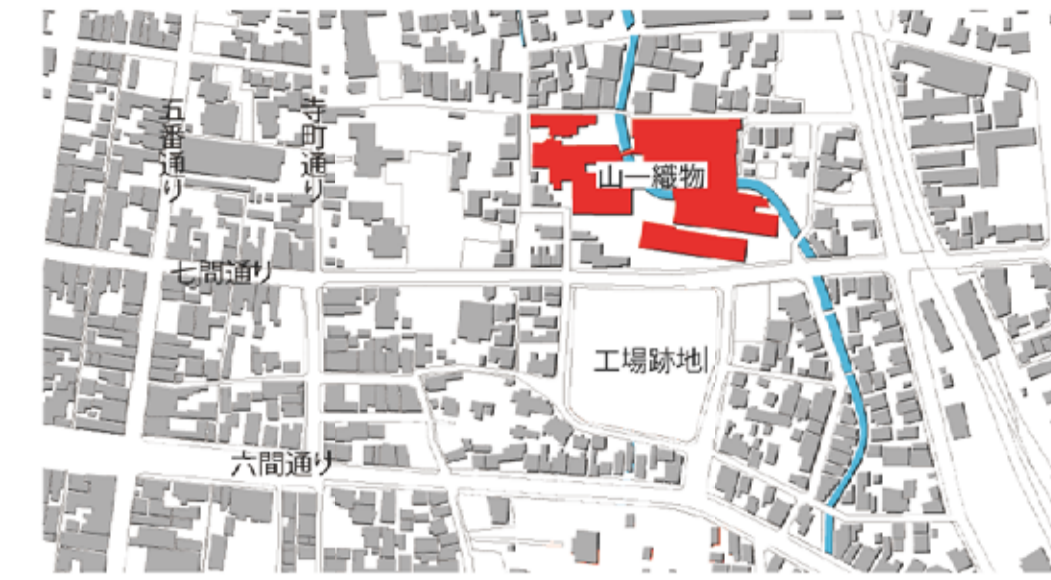
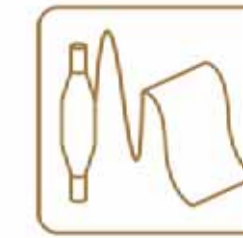


親水性のある広場

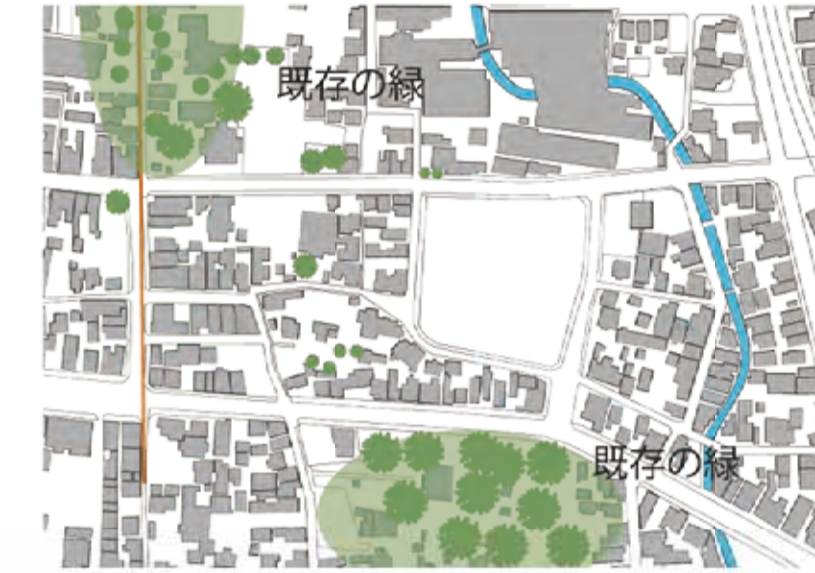


1-4. 敷地の持つポテンシャル

①工場



②緑



寺町通りと山王公園の緑を接続する。



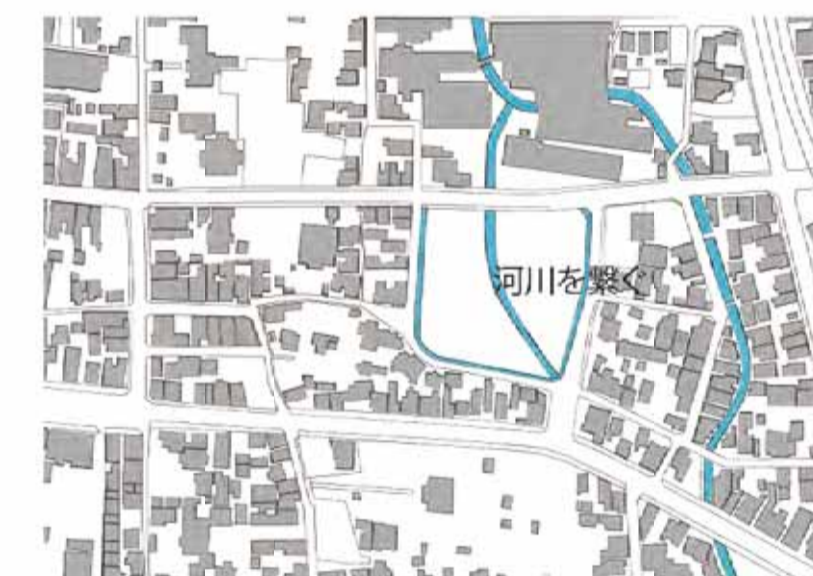
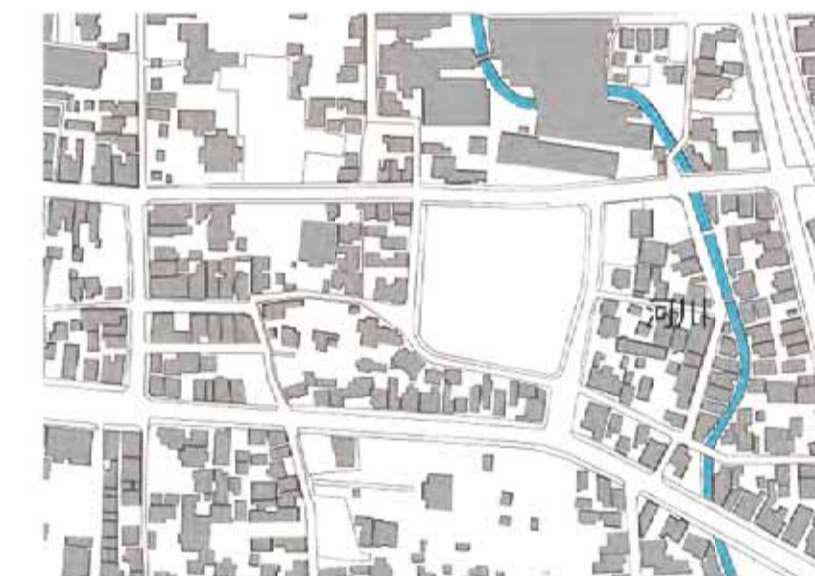
③生活



住民の休憩スポット。



④水



⑤商業



飲食店や七間通り、生活の時間を楽しくする場所。



⑥交通

